

潤いある緑豊かなまちを めざして



松戸花壇づくりネットワーク



東葛しぜん観察会



自然は、健康的で快適な生活を与えてくれるだけではなく、暮らしの豊かさを改めて認識できるかけがえのないみんなの財産です。この貴重な緑を未来に引き継ぐため、今ある環境を守り、育てる活動が重要です。

今回は、花壇づくり・公園での自然体験・森の維持管理などに携わっている市民活動を紹介しします。



幸谷ひまわりの会



結いの会



樹護の会



広がれ！ 地域を潤す みんなの花壇

松戸花壇づくりネットワーク

金ケ作にある育苗圃では、市内の緑化用樹木と花壇の草花を育てています。その一角で熱心に作業を行っているのが、「松戸花壇づくりネットワーク」の皆さん。ビニールハウス2棟の中で、季節の花々を種から育てています。育てられた花の苗は、ネットワークに参加している花の愛護団体に配られ、市内の公園や街頭の花壇を彩ります。

ネットワークが発足したのは13年前。「街の緑化を考えたときに、花の愛好家の力を借りたい。また、愛好家そのものも増やしたいと思いました」と、会長の高橋清さんは当時を振り返ります。2007年から2010年までは、東松戸ゆいの花公園の花壇づくりにも携わりました。今ではネットワークに参加する団体も増え、11団体が協力しています。年間20種類以上、約1万本の苗を育てる皆さんですが、「自分たちでやってみて初めて分かることもある」と、毎年新しい品種を育てたり育て方を変えたりして、挑戦を続けています。

各団体に配られた苗は、街の緑化に活かされます。「この活動のおかげで外に出る機会も増えてるんですよ」と語るのは、副会長の宮澤金吾さん。てきぱきと作業しながら、健康づくりにも役立っていると教えてくれました。また、植え付けを地域の子どもたちに手伝ってもらうこともあるそう

です。「自ら育てることで、子どもたちにも花壇・生き物・環境などの大切さが伝わるみたいですよ」と、同じく副会長の藤田博美さんは顔をほころばせます。

最近、少しずつ活動の裾野が広がってきたことを実感しているという皆さん。「私たちのネットワークがとなぐのは、花壇だけではなく人の心。地域や世代にとらわれず、これからもつながりが広がっていくことを期待しています」と高橋さんは、きれいに並んだ苗を見て目を細めました。

◎松戸花壇づくりネットワーク ☎391-6844



会長・高橋清さん



副会長・宮澤金吾さん



副会長・藤田博美さん

街に潤いとやすらぎを

幸谷ひまわりの会



「この花はあっちの花壇でいいかしら?」「暑いから花も自分も水分補給しないと」早朝の駅前からにぎやかな声が聞こえます。JR新松戸駅・流鉄流山線幸谷駅の駅前広場にある花壇などの世話を「幸谷ひまわりの会」の皆さんが始めてから14年がたちました。今では4カ所の花壇と大型ポット13基を20人のメンバーで手入れしています。

この活動を始める前、大型ポットには、たばこの吸い殻やごみが投げ入れられていたことが多かったそうです。代表の板橋芳子さんは、この状況を何とかしたいという思いから町会や市に掛け合い、花を植える活動を始めました。「任された範囲を自分たちで作りに上げていく、きれいにしていくことが楽しいですね」と、今も続くその秘訣を笑顔で語ります。

花壇づくりは、たくさんの交流につながります。「いつもありがとう」「この花、なんていう名前ですか?」地域の人や通勤中の人、駅前ロータリーで停車中のタクシー運転手など、さまざまな人との会話も楽しみの一つだとか。また同会は、花壇活動を行う団体が集まる「松戸花壇づくりネットワーク」に所属し、同じ志を持った市内の各団体と交流しながら、自分たちの活動で使う苗を育てています。苗は種から育てた気持ちが込められたもの。今では年間40種類以上の季節の花々が、道行く人の目を楽しませています。

会計を務める寺田順子さんは、「活動を続けてきたことで、より地域へ

の関心が深まりました」と教えてくれました。「花にこれまで以上に興味を持つようになりましてし、その成長と共に街も明るくなりすね」と、花の成長と街の雰囲気の変化に手応えを感じています。

駅の近くには、まだ空いている緑地帯があります。「花を増やして皆さんに楽しんでいただきたいですね。今はまだ手が回らないのですが、活動範囲を徐々に広げていきたいです。新メンバーも募集中です!」と目標を掲げる板橋さん。「地域の方々が潤いを感じてくれれば」と、これからも花々に思いを託します。

◎幸谷ひまわりの会 ☎341-5038



代表・板橋芳子さん



会計・寺田順子さん

自然の潤いを、未来に生きる子どもたちへ

東葛しぜん観察会

「アゲハチョウだ!」「よく見てごらん、花に止まって何をしていると思う?」「蜜を吸ってる!」21世紀の森と広場に植えられている百日草の畑で、子どもたちに優しく教えているのは、東葛しぜん観察会の皆さんです。この日は夏休み期間に行われた「ドンちゃん・グリちゃんの自然展」の催し「夏の自然たんけんラリー」に、多くの親子が参加していました。

東葛しぜん観察会は、(公財)日本自然保護協会が主催する「自然観察指導員講習会」を受講した「自然観察指導員」のうち、東葛地域在住の有志で構成されています。2000年に県内で同講習会が行われた際、たまたま帰り道が同じ東葛方向だった8人の受講生が自主的に組織したのが会の始まり。今では自然観察指導員を目指している人を含め、64人が参加しています。

活動地域は、松戸市を含む県内10市。松戸市内では主に21世紀の森と広場で活動しています。「講習会を受講すれば誰でも自然観察指導員になれます」と語るのは、事務局の三嶋秀恒さん。当初、自然観察会の参加者は大人が中心でしたが、「自然体験が少ない子どもやその親の世代に、楽しい自然とのふれあい体験を提供したい」と考えた事務局の渋谷孝子さんを中心に、次第に子ども向けの体験企画も行うようになりました。

「子どもの知識や興味に合わせて、易しい言葉で説明できるのが私たちの強みです」と渋谷さんは言います。「小学生の自然観察のお手伝いもしています。児童からも先生からも好評ですよ」と三嶋さん。21世紀の森と広場



は市内の小学校が遠足や校外学習で利用することも多く、その際には講師役を務めることもあるそうです。

「子どもの頃に楽しい自然体験をしたことがある人は、自然を大切に思うようになるはずですよ。長い目で見れば、自然保護活動の一つになると思っています」と渋谷さんが言うように、「自然観察から始まる自然保護」が自然観察指導員のモットー。「幼稚園や保育園のお子さん向けの体験も提供できます。21世紀の森と広場での遠足の際は、ぜひご連絡ください」と三嶋さんはアピールを忘れません。子ども向けの体験企画のノウハウを重ね、今では市と一緒にイベントを行う機会も多い東葛しぜん観察会の皆さんは、未来を見据えた活動を続けます。



事務局・三嶋秀恒さん



事務局・渋谷孝子さん

遠足での自然体験のお手伝いをしています

21世紀の森と広場への遠足の際に、体験プログラムを提供できます。詳細はお問い合わせください。

☎東葛しぜん観察会 ☎343-8041

団体情報はホームページへ

講習会やイベントの案内を掲載しています。興味がある人はぜひご覧ください。



同会ホームページ

花を通じて、人とのかわりに潤いを

結いの会

2007年に開園した東松戸ゆいの花公園は、市民一人一人が「花」によって結ばれ、「花」を通じて輪が広がり、心の潤いや安らぎを感じられる場所として、どの季節にもたくさんの花が咲くよう整備されています。開園当初は「松戸花壇づくりネットワーク」の皆さんが管理していた同公園の花壇を、2011年の公募により集まったメンバーで発足した「結いの会」が引き継ぎました。その後2度の追加募集を経て、今では30人が参加しています。

「草花を育てる魅力を楽しみながら、季節の移り変わりを感じて活動しています」と語るのは、会長の梨本恭子さん。かつて新松戸地区で公園や公共施設の花壇づくりを行っていたこともあるベテランです。梨本さんのように知識が豊富なメンバーもいますが、公募の際の講座を通じて加入したメンバーも多くいます。副会長の黒川由美さんもその一人。「この会は出欠が自由なので、私のような主婦も参加しやすいですね」と黒川さんが言うように、都合がつかないときだけ活動できるのが同会の特徴。活動日は決まっていますが、その日に参加するかどうかは個人の自由です。それでも常に10人以上のメンバーが集まり、雑草の摘み取りや水やり、新しい苗の植え付けなどを行っています。

同会のもう一つの重要な活動が、同公園で行われる3つのイベントへの参加。5月の「結いの花フェスタ」、9月の「結いの花まつり」



(2018年9月15日号5面参照)、12月の「クリスマス会」では、それぞれ花植え体験や押し花づくりなどの講座、花苗の販売など、多くの企画に関わっています。

これまでは決まった機会にメンバーを募集してきましたが、今後はより多くの人が参加できるようにしていきたいそうです。「最初は知識がなくても大丈夫。続けていると自然に植物に目が行き、調べて分かるようになります」と黒川さん。梨本さんは「活動を通じて、地域住民同士・会員同士の交流のきっかけになる場にできれば」と意欲を見せます。花を通じた交流が地域に広がっていくことを目指して、これからも活動は続きます。



会長・梨本恭子さん



副会長・黒川由美さん

「結いの会」のメンバーを募集しています(一日体験・見学可)

都合がよいときだけ参加できます。欠席の連絡は必要ありません。見学や体験も大歓迎。興味がある人はぜひお問い合わせください。

☎公園緑地課 ☎366-7380

心潤う、さわやかな森を目指して

樹護の会

人々の暮らしのすぐそばにあり、適度に手入れをすることで豊かな自然環境が守られている森のことを「里やま」と呼びます。この貴重な松戸の里やまを次の世代に引き継ぐ担い手を育てるため、2003年から毎年開催しているのが「里やまボランティア入門講座」（詳細は下段）。里やまの自然や松戸の緑の現状、都市にある緑の役割についての講義の他、森での作業と安全講習を5日間の日程で行います。

その講座を修了して活動を始めた団体で構成されている連絡組織が「松戸里やま応援団」です。同応援団は、市と協働で里やまボランティア入門講座を開催している他、所属団体のステップアップを目的として年数回の講習会も開催しています。チェーンソーの使い方講習会、救命講習会、他市のボランティア団体との合同講習会など、その内容はさまざま。同応援団代表の野口功さんは、「松戸にはまだまだ手付かずの森が多くあります。この入門講座をきっかけに自然保護に興味を持ってもらい、一人一人ができる範囲で活動してもらえれば」と期待を込めています。現在は



13団体が所属。団体ごとに担当する里やまがあり、それぞれのペースで活動しています。

その13団体のうち、今年の4月から活動をスタートさせたばかりなのが「樹護の会」です。「元々自然保護には興味があったので、仕事を引退した後の活動として

選びました」と教えてくれたのは、同会代表の中村詔夫さん。金ケ作にある「野中の森」で、月2回、10人で活動しています。下草の刈り取り、落ち葉掃除、枯れた木の伐採と細断、それらの片付けなど、森の維持に必要な作業は時間も手間もかかるもの。ですが、「始めてすぐの頃は、どこから手を付けてよいのか分からず不安でした。手入れされていない森にはごみが捨てられてしまうこともあるので、長年活動されている森のように、早くきれいにしたいと焦っていました」と当時を振り返ります。応援団に所属している先輩団体から、「すぐにできることばかりではないから、少しずつでいいんだよ」とアドバイスをもらったこともあり、実際に作業を進めるうちにだんだんとペースが分かってきたそうです。「この森を自分たちが守っていくんだ」という意識も持てるようになったとのことで、「ゆくゆくは、子どもたちを対象とした自然に関する教室を開催してみたいですね」と、維持管理だけではなく、将来も見据えて活動を行っています。

周囲には住宅が並び、付近を通る人も多い野中の森。その緑を見た誰もがほっとできるような、明るくさわやかな森を目指し、樹護の会は力を合わせて取り組んでいます。

團 樹護の会

☎04-7174-7164



松戸里やま応援団
代表・野口功さん



樹護の会
代表・中村詔夫さん

里やまボランティア入門講座2018〔全5回〕 要申込

森の四季の移ろいを感じながら気持ちよく汗をかいて、緑を大切に思う仲間と松戸の森を守り育てる活動に参加してみませんか。

日時	会場	内容	講師
10/18(木) 9:45~15:00	矢切公民館、矢切斜面林	●里やまボランティアって何だろう？ ●松戸の緑の現状と将来	森林インストラクター・栗田吉治氏
10/25(木) 10:00~15:00	21世紀の森と広場パークセンター、千駄堀地区の森	●都市の緑の役割 ●里やまを歩いてみよう	千葉大学大学院園芸学研究科准教授・柳井重人氏
11/ 1(木) 10:00~15:00	八ヶ崎地区の森、21世紀の森と広場アウトドアセンター	●都市の樹林が抱える課題 ●グループワーク	松戸里やま応援団
11/ 8(木) 10:00~15:00	金ケ作地区の森	●森の作業と安全講習 ●森のお楽しみ体験	松戸里やま応援団
11/15(木) 10:00~15:00	21世紀の森と広場パークセンター	●里やま活動団体と森の所有者との交流 ●グループワーク	松戸ふるさと森の会、松戸里やま応援団

対象市内在住・在勤・在学 定員20人程度 費用3,000円

9月25日(火)〔必着〕までに、はがきまたはEメールに住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入して、〒271-8588松戸市役所 みどりと花の課 ☎mcmidori@city.matsudo.chiba.jp ☎366-7378)へ



広告